

関係各位

京都府病虫害防除所長  
( 公 印 省 略 )

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。

◇  
発生予察注意報第 3 号

**ハスモンヨトウの多発が夏から続いています  
今後も豆類、野菜類での発生に注意してください**

- 1 作物名：豆類（黒ダイズ、エダマメ、アズキ等）、野菜類
- 2 病虫害名：ハスモンヨトウ
- 3 発生地域：全域
- 4 発生時期：9月下旬～11月
- 5 発生量：**平年比多い**
- 6 注意報発表の根拠
  - (1) フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ成虫の誘殺数は、8月下旬から再び増加して平年値を上回り、9月第1半旬にピークを迎えた(図1)。また、京田辺市、亀岡市、京丹後市における直近1か月間の誘殺数はそれぞれ223.8頭(平年値295.4頭)、834.4頭(例年値434.4頭)、340.9頭(平年値218.0頭)で、京田辺市では平年並であったが、亀岡市、京丹後市は平年比(例年比)多かった。
  - (2) 9月第3半旬に丹後、中丹、南丹地域で実施した巡回調査では、黒ダイズほ場のハスモンヨトウ(写真1)の寄生株率は22.0%(平年値3.8%)、25株当たりの寄生虫数は15.4頭(平年値1.9頭)、10a当たりの白変葉数(写真2)は12.0枚(平年値3.4枚)、発生ほ場率は50.0%(平年値28.8%)で、発生量は平年比多かった。また、アズキほ場の寄生株率は12.4%(平年値3.7%)、25株当たりの寄生虫数は5.1頭(平年値1.8頭)、10a当たりの白変葉数は1.1枚(平年値3.4枚)、発生ほ場率は72.8%(平年値44.7%)で、発生量は平年比やや多かった。
  - (3) 大阪管区气象台平成28年9月15日発表の向こう1か月の近畿地方の気象予報では、**気温は平年比高く、今後もハスモンヨトウの発生、増殖に適した気象条件が続く見込み**である。



写真1 ハスモンヨトウ幼虫 (矢印)

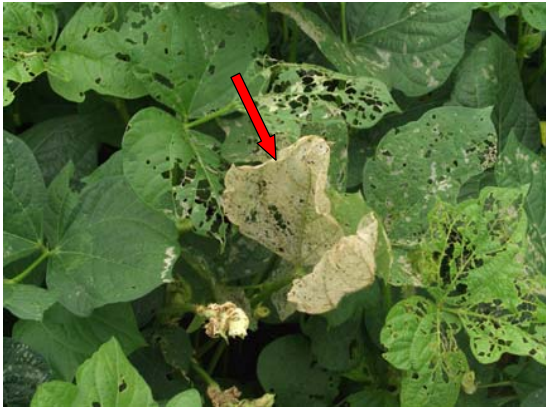


写真2 黒ダイズで発生した白変葉 (矢印)

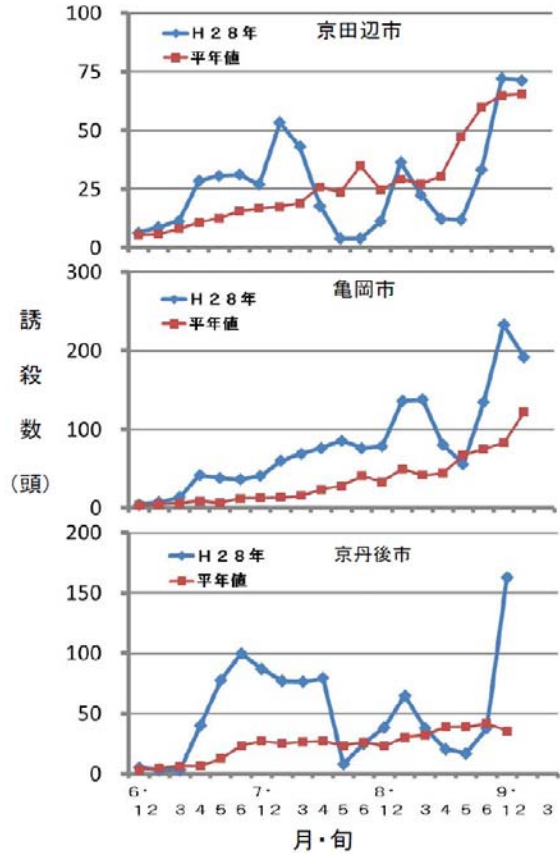


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの発生推移

## 7 防除上の注意事項

- ほ場を見回り、**若齢幼虫分散前の白変葉(写真2)の早期発見、除去に努める。**
- 齢が進んだ幼虫は薬剤効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除が特に重要である。
- アズキ**では、子実害虫類の発生にも注意が必要である。前述の巡回調査では、**アズキノメイガ(写真3)**の寄生株率は9.5%(平年値1.2%)、発生ほ場率は45.5%(平年値20.3%)、**マメノメイガ(写真4)**の寄生株率は34.9%(平年値9.6%)、発生ほ場率は81.8%(平年値50.0%)で、**発生量は両種とも平年比多く**、今後、特に注意が必要である。
- 農薬を使用する際には、使用基準を遵守して適正に使用する(表1、2、3参照)。なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を参照のこと(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)。



写真3 アズキノメイガ幼虫 (矢印)



写真4 マメノメイガ幼虫 (矢印)

表1 「ダイズ」でハスモンヨトウに登録のある主な薬剤(平成28年9月15日現在の登録内容)

IRAC コード*	農薬名	希釈倍率(使用量)	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数	備考	
1A	ラービンフロアブル	750～1000倍 6倍(0.8～1.6L/10a)	収穫14日前まで	2回以内	散布 無人ヘリ散布	2回以内		
	ランネート45DF	1000～2000倍	収穫14日前まで	4回以内	散布	4回以内		
1B	エルサン乳剤	1000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内		
	オルラン水和剤****	1000倍	収穫60日前まで	3回以内	散布	3回以内		
	ジェイエース水溶剤****	1000倍	収穫60日前まで	3回以内	散布	3回以内		
	ダースバン乳剤40	1500倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内		
	トクチオン乳剤	1000倍	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内		
(3A)	パーマチオン水和剤	1000～2000倍	収穫21日前まで	3回以内	散布	MEP4回以内 フェンパレート3回以内		
3A	MRジョーカーEW	16倍(0.8L/10a)	収穫14日前まで	2回以内	無人ヘリ散布	2回以内		
	トレボン乳剤	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内		
	トレボンEW							
	トレボンMC	8倍(0.8L/10a) 8～16倍(0.8L/10a)	8倍(0.8L/10a) 8～16倍(0.8L/10a)	8倍(0.8L/10a) 8～16倍(0.8L/10a)	8倍(0.8L/10a) 8～16倍(0.8L/10a)	8倍(0.8L/10a) 8～16倍(0.8L/10a)	8倍(0.8L/10a) 8～16倍(0.8L/10a)	
	トレボンエア							
トレボンスカイMC								
5	ディアナSC	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	豆類(種実)に登録	
6	アニキ乳剤	2000～3000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内		
11A	エコマスターBT	1000倍	発生初期、収穫前日まで	—	散布	—	豆類(種実)に登録	
	サブリーナフロアブル	500～750倍	発生初期、収穫前日まで	—	散布	—	豆類(種実)に登録	
	ゼンターリ顆粒水和剤	1000倍	発生初期、収穫前日まで	—	散布	—	豆類(種実)に登録	
	フローバックDF	1000倍	発生初期、収穫前日まで	—	散布	—	豆類(種実)に登録	
15	アタブロン乳剤	2000～4000倍 8倍(0.8L/10a) 16倍(0.8～1.6L/10a)	収穫14日前まで	2回以内	散布 無人ヘリ散布	2回以内		
	カスケード乳剤	4000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内		
	ノーモルト乳剤	2000倍 8～16倍(0.8L/10a)	収穫14日前まで	2回以内	散布 無人ヘリ散布	2回以内		
	マッチ乳剤	3000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内		
18	マトリックフロアブル	2000～3000倍 8～16倍(0.8L/10a)	収穫前日まで	3回以内	散布 無人ヘリ散布	3回以内		
	ランナーフロアブル	2000倍 16倍(0.8L/10a)	収穫7日前まで	2回以内	散布 無人ヘリ散布	2回以内		
	ロムダンゾル	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布 無人ヘリ散布	3回以内		
	ロムダンエア	16倍(0.8L/10a)						
22A	トルネードフロアブル	2000倍 8～16倍(0.8L/10a)	収穫7日前まで	2回以内	散布 無人ヘリ散布 散布 無人ヘリ散布	2回以内		
	トルネードエースDF	2000倍 8～16倍(0.8L/10a)						
22B	アクセルフロアブル	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内		
28	フェニックス顆粒水和剤	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内		
	フェニックスフロアブル	2000～4000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布 無人ヘリ散布	2回以内		
	プレバゾンフロアブル5	4000倍 16～32倍(0.8L/10a)						
	ベネビアOD	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内		
UN**	プレオフロアブル	1000～2000倍 8～16倍(0.8L/10a)	収穫7日前まで	2回以内	散布 無人ヘリ散布	2回以内		
寄生線虫***	バイオセーフ	2億5000万頭(約100g)/10a	老齢幼虫発生期	—	土壌灌注	—	豆類(種実)に登録	
微生物***	ハスモンキラー	1000倍	幼虫発生初期	—	散布	—		
	ハスモン天敵	1000～2000倍 8倍(0.8L/10a)	発生初期	—	散布 無人ヘリ散布	—		

表2 「エダマメ」でハスモンヨトウに登録のある主な薬剤(平成28年9月15日現在の登録内容)

IRAC コード*	農薬名	希釈倍率(使用量)	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数	備考
1A	ランネート45DF	1000~2000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
1B	オルトラン水和剤	1000倍	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	オルトラン粒剤	3~6kg/10a			生育期株元散布		
3A	トレボン乳剤	1000~2000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	トレボンEW	1000倍					
	トレボンMC						
5	ディアナSC	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	豆類(未成熟)に登録
6	アニキ乳剤	2000~3000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
	アフーム乳剤	1000~2000倍	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内	
11A	エコマスターBT	1000倍	発生初期、収穫前日まで	—	散布	—	野菜類に登録
	クオークフロアブル	400倍	発生初期、収穫前日まで	—	散布	—	野菜類に登録
	デルフィン顆粒水和剤	1000倍	発生初期、収穫前日まで	—	散布	—	野菜類に登録
	バンレックス水和剤	500倍	発生初期、収穫前日まで	—	散布	—	野菜類に登録
	フローバックDF	1000倍	発生初期、収穫前日まで	—	散布	—	野菜類に登録
15	アタブロン乳剤	2000~4000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	カスケード乳剤	4000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
	ノーモルト乳剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	マッチ乳剤	3000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
18	マトリックフロアブル	2000~3000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
22A	トルネードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	トルネードエースDF						
22B	アクセルフロアブル	1000~2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
28	フェニックス顆粒水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
	フェニックスフロアブル	2000~4000倍					
	プレバゾンフロアブル5	4000倍					
	ベネビアOD	2000~4000倍					
UN**	プレオフロアブル	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	豆類(未成熟)に登録
寄生線虫***	バイオセーフ	2億5000万頭(約100g)/10a	老齢幼虫発生期	—	土壌灌注	—	野菜類に登録
微生物***	ハスモンキラー	1000倍	幼虫発生初期	—	散布	—	
	ハスモン天敵	1000~2000倍	発生初期	—	散布	—	

表3 「アズキ」でハスモンヨトウ、ノメイガ類(アズキノメイガ、マメノメイガ)に登録のある主な薬剤(平成28年9月15日現在の登録内容)

IRAC コード*	農薬名	対象害虫名	希釈倍率(用量)	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数	備考
1B	スミチオン乳剤	アズキノメイガ	1000倍	収穫21日前まで	4回以内	散布	4回以内	
	トクチオン乳剤		1000倍	収穫30日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	オルトラン水和剤****	アズキノメイガ	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ジェイエース水溶剤****	ノメイガ類****	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	
3A	アグロスリン乳剤	ノメイガ類	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	トレボン乳剤	ハスモンヨトウ、ノメイガ類	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	トレボンエア-		無人ヘリ散布					
	アディオソ乳剤	アズキノメイガ	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	テルスター水和剤		1500倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	パイスロイド乳剤		2000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ペイオFME液剤		2000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
4A	モスピランSL液剤		ノメイガ類	2000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
5	ディアナSC	ハスモンヨトウ、アズキノメイガ	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
11A	エコマスターBT	ハスモンヨトウ	1000倍	発生初期、収穫前日まで	-	散布	-	豆類(種実)に登録
	サブリーナフロアブル		500~750倍	発生初期、収穫前日まで	-	散布	-	豆類(種実)に登録
	ゼンターリ顆粒水和剤		1000倍	発生初期、収穫前日まで	-	散布	-	豆類(種実)に登録
	フローバックDF		1000倍	発生初期、収穫前日まで	-	散布	-	豆類(種実)に登録
13	コテツフロアブル	ノメイガ類	2000倍	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内	
15	カスケード乳剤	アズキノメイガ	4000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
寄生線虫***	パイオセーフ	ハスモンヨトウ	2億5000万頭(約100g)/10a	老齢幼虫発生期	-	土壌灌注	-	豆類(種実)に登録

\*殺虫剤コード。殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。

\*\*作用機構が不明あるいは不明確な薬剤。

\*\*\*IRACの分類に該当しないもの。

\*\*\*\*オルトラン水和剤とジェイエース水溶剤は同一成分であるため、これらの薬剤を使用する場合は総使用回数を超えないように注意する。

\*\*\*\*\*ノメイガ類:アズキノメイガ、マメノメイガ